

## 第 25 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016.4.5 熊山 ともみ

### 『PF 点眼液について』

日本点眼（株）井口 淳さん

場所： コンパス薬局藤沢

参加者： 相原美穂 空田さやか 熊山ともみ

緑内障の治療は長期間に渡る薬物治療が必要となる。昨今、点眼剤の添加物に注目が集めらおり、塩化ベンザルコニウム (BAC) 等の防腐剤は、角膜上皮障害を起こしやすいことが判っている。今回は、防腐剤を含まない PF 点眼液について勉強会を行った。

#### <防腐剤について>

点眼剤の防腐剤で、日本の点眼剤の薬 6 割にも使われているものが塩化ベンザルコニウム (BAC) である。水溶性、低濃度で幅広い効力を持つことから汎用されている。BAC はムチンを減少させドライアイ等の原因や、 $\beta$  遮断作用から知覚低下を招く恐れがある。

防腐剤としての濃度は 0.02% までが限度とされている。

#### <デバイスについて>

PF デラミ容器：、Preservative Free（防腐剤無添加）、Delamination（薄い層に剥離すること）の意味。

先端に  $0.22\mu\text{m}$  のメンブランフィルターを組み込み、内袋と外層の 2 層にて、微生物等の混入を防いでいる。

類似品）生しょうゆ容器

#### <使用について>

##### ○開栓操作

容器の中央にある丸いマークを両手の親指で強く 1 回押す。

→この作業によって、インナープラグが外れる。開栓操作後、インナープラグは外れた状態が保たれる。

#### <特徴>

- ・長期投与に対する安全性が高い。
- ・UDタイプに比べて、安全性同等、コストが安い。
- ・ソフトコンタクトレンズ装着したまま点眼できる。

#### <考察>

前提として防腐剤は人体に障害を認めない濃度で含有されている上に、通常は点眼刺激による涙の分泌でさらに濃度が下がるので、通常悪影響はでない。しかし、緑内障治療等で長期に使用する場合や、ドライアイで1日何度も点眼する場合、考慮したい問題である。

PF点眼液での問題点として挙げられるのが、握力の弱った高齢者には開栓操作がやや難しいのではないかということだ。開け方が不十分であると、インナープラグが半開きとなり、薬液が出てこない。開栓操作が必要の旨、初めの1滴がでてくるまでに時間が通常の点眼液よりかかることを、投薬時示していきたい。

#### <Q & A>

Q. 開栓操作後は4週が使用期限となるか？

A. 開栓した後であっても、開封をしなかったら期限は容器記載のままと考えてよい。(開封＝ラミネートを取り、ふたを外す。)